

ウイルス担当(平成20年度)

◇ 病原体定点調査(感染症発生動向調査事業)

(1) インフルエンザウイルス

平成20年10月から平成21年4月までにAH1N1型77株、AH3N2型41株、B型73株の合計191株のウイルスが分離または遺伝子が検出された。また、定点以外の医療機関から依頼された検体では、AH1N1型11株、AH3N2型6株、B型2株が分離された。このうちAH1N1型ウイルスについては平成20年12月4日、5日(第49週)に瀬谷区定点検体から3株分離された。その後、1月第3週をピークに2月まで連続して分離・検出され、4月第15週に1株を分離した。一方、AH3N2型ウイルスについては平成20年11月14日(第46週)に栄区定点検体からはじめて遺伝子が検出され、12月にはAH1N1型ウイルスを上回る分離・検出数であったが、年明け後は増加のピークはみられず、3月まで分離・検出された。他方、B型ウイルスは平成20年12月8日(第49週)の瀬谷区定点検体から1株分離され、1月までは少数の分離・検出であったが、2月に入ってから増え始め、3月第11週をピークに4月中旬まで分離・検出が続いた。各ウイルスの抗原性状を調べたところ、AH1N1型ウイルスの74%はワクチン株であるA/Brisbane/59/2007と抗原性が類似していた。また、AH3N2型ウイルスの84%はワクチン株であるA/Uruguay/716/2007と抗原性が類似していた。一方、B型ウイルスは山形系統の参照株であるB/Brisbane/3/2007に反応せず、Victoria系統のウイルスであった。

(2) アデノウイルス

一年を通じて29株分離された。国内では、3型の分離・検出は一年を通じて報告されたが、特に、6月から8月にかけて報告数が増加し、本市においても6月に小児科定点の咽頭炎患者由来の3検体、7月に小児科定点の咽頭炎患者由来の1検体とヘルパンギーナ患者由来の1検体から分離された。また、眼科定点の流行性角結膜炎患者由来の1検体から8型、1検体から型未同定のアデノウイルスが分離された。

(3) エンテロウイルス群(ポリオ、コクサッキーA・B群、エコー、エンテロウイルス71)

夏季を中心に、12種56株が分離検出された。ポリオウイルス3株は、OPV由来ワクチン株であった。手足口病患者由来の23検体から、コクサッキーウイルスA16型18株、A6型2株、エンテロウイルス71型3株が分離・検出された。また、ヘルパンギーナ患者由来の9検体から、コクサッキーウイルスA5型4株、A6型3株、A2型2株が検出された。

(4) RSウイルス

主に咽頭炎、気管支炎患者由来の検体から一年を通じて41株検出された。冬季の小児のかぜの主要な病因ウイルスの一つであるが、夏季にも散発例がみられた。

(5) 麻疹ウイルス

ワクチン型であるA型が1株、全国的に流行しているD5型が1株検出された。

◇ ウイルス性食中毒等の検査(平成20年度)

非細菌性の有症苦情を含む食中毒等の事例(感染症の事例も含む)に対する検査は、昭和58年度より原因究明のための調査・研究として実施している。平成20年度の検査数は、231事例1,269件(患者821件、従業員444件、食品40件)で、昨年度の事例数(236事例)、検査数(1,452件)と比べてやや減少した。

全231事例中の133事例(57.6%)はノロウイルス陽性、5事例はロタウイルス陽性(3事例はA群ロ

タウイルス陽性、2事例はC群ロタウイルス陽性)、1事例はサポウイルス陽性であった。今年度のノロウイルスの遺伝子型は、G1型が19事例、G2型が111事例、G1とG2型の混在が3事例であった。例年同様にG2型が主流であることには変わらないが、G1型およびG1とG2の混在事例も合計22事例であった。また、ロタウイルス感染症が小学校で2事例(C群ロタウイルス)、高齢者施設で2事例、保育園で1事例発生した。サポウイルスについては平成20年7月に小学校の事例が発生した。

今年度のノロウイルス感染症による集団発生は86事例で、昨年度(85事例)とほぼ同じであった。その事例数の内訳は、高齢者施設19、保育園・幼稚園16、小学校44、中学校3、病院1、福祉施設2、その他1、の計86事例であり、小学校の事例が昨年度に引き続き大幅に増加した。

◇ HIV検査(平成20年度)

HIV無料匿名検査は、各福祉保健センターで実施している一般依頼検査、横浜AIDS市民活動センターでの夜間検査(18:00~19:30)、結核予防会中央相談所での土曜検査(14:00~18:00)の3つの受付窓口がある。それらから依頼されたHIVのスクリーニング検査は、昭和61年度から衛生研究所で検査を実施している。また、平成17年5月からは、結核予防会中央相談所の土曜検査で、即日検査が選択できるようになった。さらに、平成20年5月から県予防医学協会での即日検査が第2と第4日曜日に行われるようになった。本年度の取扱件数は総数3,087件で、その内訳は、一般依頼検査:2,001件、夜間検査:1,049件、土曜検査:1,406件(通常検査:37件、即日検査:1,369件)であった。その内、陽性10件(前年度11件)の内訳は、一般依頼検査:2件、夜間検査:0件、土曜検査:6件(通常検査:0件、即日検査:6件)、日曜検査での即日検査2件であった。さらに、夜間検査においては、任意希望で梅毒検査も受けられるようになっており、当所で1007件の抗体検査を実施した。また、HIV検査等のイベントが行われ、その件数は52件であり、そのうち梅毒検査希望者は51件であった。

また、市民病院からの依頼であるエイズ患者のフォローアップ検査は、抗HIV薬剤に対する耐性株の出現をみることを主眼にしており、患者への治療方針の補助になるものとして平成5年度から実施している。本年度の検査件数は、患者数43名による46件であり、その内新患は39名であった。